

### クリーンフーズシリーズ

本体品番 NNLK (NNLKH) 42575

- ・上記 ( ) 内は加工品番です。以降、加工品番および特注品番の記載を省略します。
- ・本照明器具はパナソニック製 iD シリーズ専用本体とライトバーの組合せで性能を満足します。

適合ライトバー	昼白色 (5000K)	組合せ品名
6900lm (省エネ、非調光) タイプ	NNL4600HNT LE9	直付XLX460ZHNT
5200lm (省エネ、非調光) タイプ	NNL4500HNP LE9	直付XLX450ZHNP
10000lm (一般、非調光) タイプ	NNL4000ENJ LE9	直付XLX400ZENJ
6900lm (一般、非調光) タイプ	NNL4600ENT LE9	直付XLX460ZENT
3200lm (一般、非調光) タイプ	NNL4300ENT LE9	直付XLX430ZENT
5200lm (一般、非調光) タイプ	NNL4500ENT LE9	直付XLX450ZENT
2500lm (一般、非調光) タイプ	NNL4200ENT LE9	直付XLX420ZENT

(一般屋内用) ・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

### 施工説明

工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

### 安全に関するご注意



### 警告

- ライトバーを単独で使用しない。必ずパナソニック製 iD シリーズ専用本体とライトバーの組合せで使用する。落下・感電・火災の原因となります。
- 施工は、施工説明にしたがい確実にこなす。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 天井取付専用ですので、壁面取付はしない。落下の原因となります。
- 本体、ライトバーを分解、改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーのカバーは樹脂製のため、取扱いに注意する。破損によるけがの原因となります。万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- ライトバーが破損した状態で使用しない。落下、感電、火災の原因となります。
- 表示された電源電圧 (定格電圧±6%) ・周波数で使用する。指定外の電源電圧・周波数で使用すると、感電・火災の原因となります。
- 電源線には、ライトバー同梱の耐熱チューブをかぶせて使用する。感電・火災の原因となります。(耐熱チューブ同梱のライトバーのみ使用する)



### 注意

- 直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、振動の強い場所、雨水のかかる場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 周囲温度は、5～35℃以内で使用してください。指定外の周囲温度で使用すると、ちらつきや短寿命の原因となります。
- 一般屋内でご使用の場合でも、器具周辺に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。(一部の食品や薬品、車の排気ガスには硫黄成分が含まれます。)
- 光学性能に影響を与える場合があります。
- ライトバーのパネルはポリカーボネート製のため、直射日光の当たる場所や蛍光灯が近接する場所などの紫外線の多い場所、ヘキサンやアセトンなどの有機溶剤が使用される場所では使用しないでください。パネルの劣化・破損の原因となります。
- 器具の取り付け取り外しは手袋など保護具を使用する。けがのおそれがあります。

### 施工上のご注意

- ・ライトバーの取り付けには方向性があります。
- ・スイッチを接地側に取り付けた場合、消灯後もライトバーが薄暗く発光する場合がありますので、必ず非接地側 (電圧側) に取り付けてください。(接地側の無い電源では両切りスイッチをおすすめします。)
- ・間接照射殺菌灯と併用する場合は、間接照射殺菌灯の承認図または取扱説明書に記載の距離を離してください。樹脂製カバー劣化の原因となります。
- ・バーコードリーダーの機種によっては器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなる場合があります。このような場合には、器具との距離を離すか遮蔽するなどの対策を講じてください。
- ・虫の飛来が多い場所で使用する場合は、ライトバー内に虫が侵入するおそれがあります。このような場合は防湿・防雨型ベースライトなどの防虫仕様器具をおすすめします。
- ・電源方式により騒音 (うなり) が大きくなる場合がありますので、以下の配線を行ってください。
  - ・三相電源を使用する場合は、必ず接地側を器具の端子台のN側に接続してください。
  - ・電源と器具間に片切りスイッチを設ける場合は、必ず非接地側 (充電側) に取り付けてください。



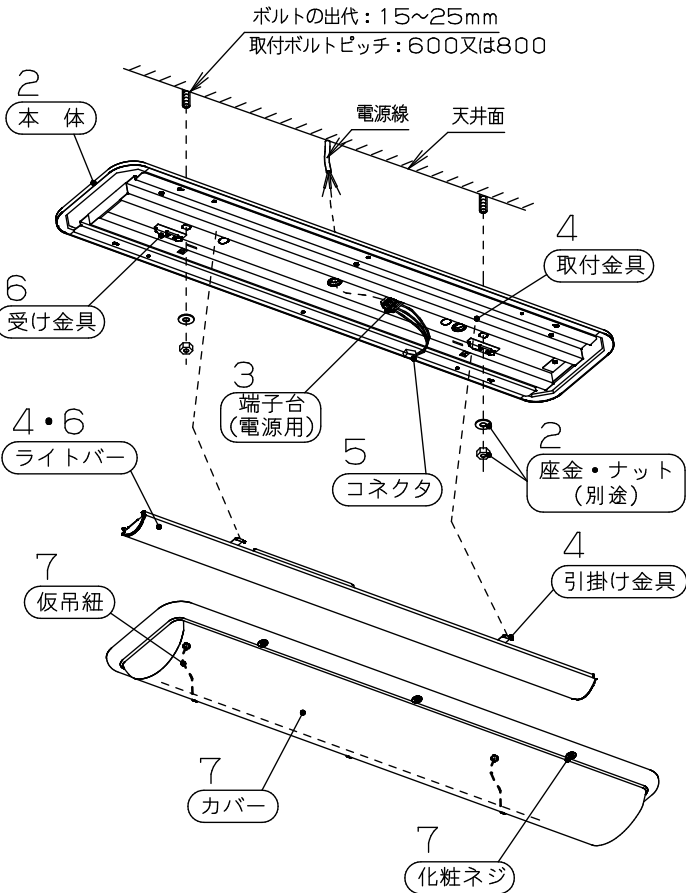
# 各部のなまえと取付方法



## 警告

施工は、施工説明書にしたがい、確実に行う。  
施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。  
ライトバーの取り付け・取り外しは必ず電源を切る。

- 器具の取り付け、取り外しは手袋など保護具を使用する。けがのおそれがあります。



### 6 ライトバーの取付

- ライトバーのキックパネを本体の受け金具に確実に取り付ける。
  - コネクタを挟まないようライトバーを本体内へ押し上げる。
- 不備がありますと、ライトバー落下の原因となります。

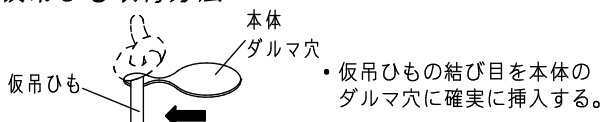


### 7 カバーの取付

- 仮吊ひもを取り付ける。
- カバーを押し上げて本体に密着させる。
- カバーを化粧ネジ(6個)で止める。

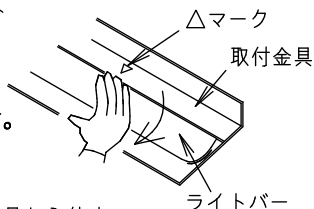
**警告** 不備があるとカバー落下の原因となります。

#### 仮吊ひも取付方法



#### ライトバーを取り外す場合

- 取付金具の△マークを目印に、手でライトバーを引き下げる。工具でこじ開けますと、ライトバー破損の原因となります。
- キックパネを本体の受け金具から外す。
- コネクタを外す。
- ライトバーの引掛け金具を取付金具から外す。



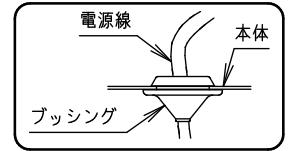
### 1 取付前の確認

- 既設器具取り替えの場合、周辺機器の電気容量を確認する。不備があると感電・火災の原因となります。
- 器具質量(6.8kg:NNLK42575+ライトバー)に十分に耐えるよう、取付ボルトの強度を確保する。(取付ボルトは、W3/8又はM10を使用する。)

**警告** 不備があると器具落下・感電・火災の原因となります。

### 2 本体の取付

- 電源線、アース線を本体の電源穴(プッシング付)から引き込んでおく。電源線の太さに応じて、プッシングの先端をカットしてください。
- 注) 600ピッチで取り付けの場合は、中央電源穴から引き込んでください。その際、ボルト横のプッシングは取り外してください。
- 本体を取付ボルトで確実に取り付ける。(取付ボルト推奨トルク値: 1.5N・m)(取付ボルトは600、又は800ピッチの穴に取り付ける)



**警告** 不備があると器具落下の原因となります。

### 3 電源線・アース線の接続

- 電源線、アース線を確実に差し込む。
- D種(第3種)接地工事が必要。
- 端子台の最大送り容量は右表の通りです。

明るさタイプ	容量
10000lmタイプ	8A
6900lmタイプ	12A
5200lmタイプ	13A
3200lmタイプ	20A
2500lmタイプ	20A

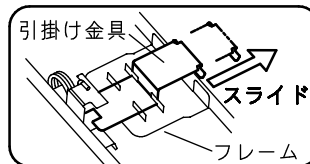
**警告** 接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、火災の原因となります。

- 電源線接続後、余分な電源線は、ライトバーとの干渉を防ぐため電源穴へ押し戻すか、電源線をおさえて処理すること。
- 電源穴と端子台の間は曲げずにまっすぐに配線すること。

不備があるとライトバーの電源と干渉し電源線損傷による感電・火災の原因となります。

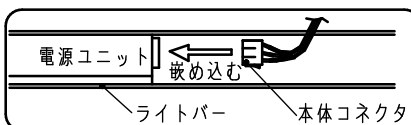
### 4 ライトバーの引掛け

- ライトバーの引掛け金具をフレームに当たるまでスライドさせ、取付金具の角穴に片側ずつ確実に引掛ける。取付が不完全な場合、ライトバー落下の原因となります。



### 5 コネクタの接続

- 本体とライトバーのコネクタを確実に接続する。「カチッ」っと音がするまで嵌め込んでください。



**警告** 不備があると感電・火災の原因となります。

# 耐熱チューブの取付方法



## 警告

- 耐熱チューブは下記にしたがい確実に取り付ける。  
不備がある場合、感電・火災の原因となります。
- 電源送り配線を行う場合は、電源線・送り線ともに取り付ける。

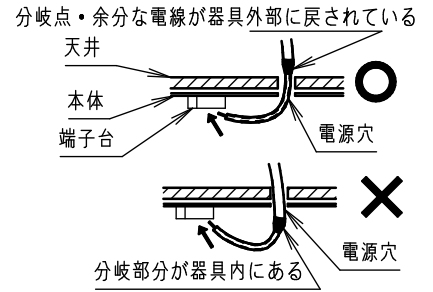
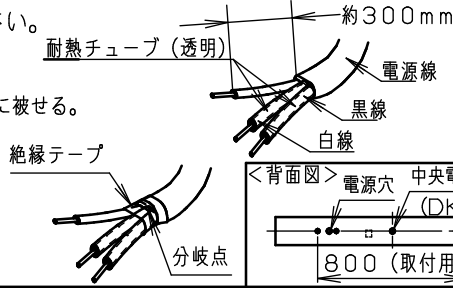
注) 分岐部分は天井裏にしてください。

### 1 耐熱チューブの取付

- ・電源線のシース部を剥く。(約300mm)
  - ・同梱の耐熱チューブ(透明)を電源線(黒・白)に被せる。
- 注) ・根元まできっちりと差し込んでください。  
・アース線への取り付けは不要です。

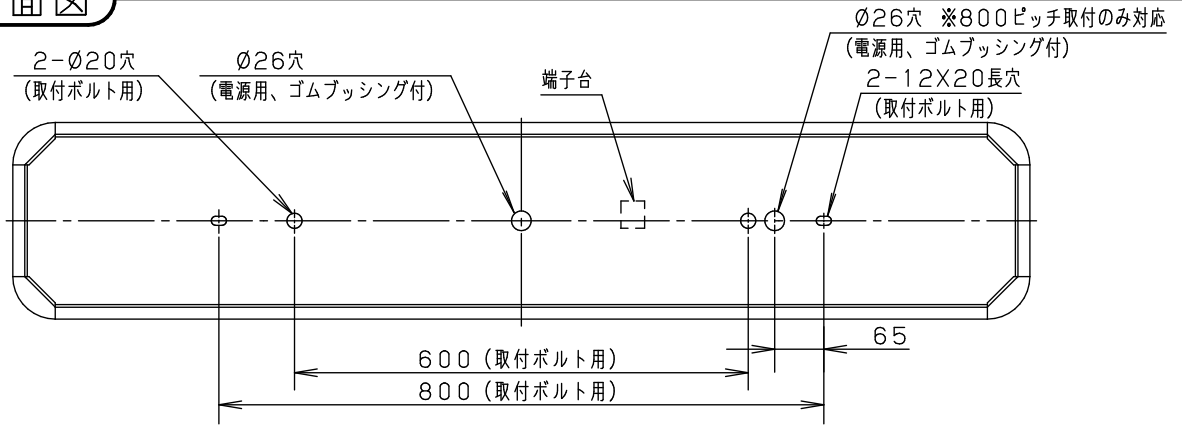
### 2 分岐点の保護

- ・分岐点(保護チューブの被っていない箇所)に絶縁テープを巻き付け保護する。
- ・結線後、電源線を電源穴(天井裏)に押込む。



電源線を中央電源穴から引き込む場合には、耐熱チューブを半分(約150mm)に切断し、電源線のシース部を約150mm剥いて使用しても問題ありません。

## 器具背面図



## 取扱説明

お客様へ、この説明書は必ず保管ください。

- ・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

## 安全に関するご注意



## 警告

- 必ずパナソニック製 iD シリーズ専用本体とライトバーの組合せで使用する。落下・感電・火災の原因となります。
- 本体、ライトバーを分解、改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーのカバーは樹脂製のため、取扱いに注意する。破損によるけがの原因となります。万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- ライトバーが破損した状態で使用しない。落下、感電、火災の原因となります。
- 万一、煙がでたり、変な臭いがするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- ライトバーを取り外す場合は、必ず電源を切る。感電の原因となります。



## 注意

- シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で器具を拭かないでください。変色、変質、強度低下による破損の原因となります。水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
- 照明器具には寿命があります。設置して10年\*経つと、外観に異常がなくとも内部の劣化は進行しています。点検交換してください。LED光源は寿命が来ても、暗くなりますが点灯し続けます。点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。  
※ 使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯です。
- 周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。3年に1回は工事店などの専門家による点検をお受けください。(チェックシート番号: CLX2021HA) 点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。

■ LED照明器具の光源寿命は、40,000時間です。

## 使用上のご注意

- ・光源として高輝度LEDを使用しています。光源部(ライトバー)を長時間直視しないでください。
- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離して使用してください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機などの誘導無線を使用する場合、雑音が入ることがあります。事前に確認し、対策を講じてください。
- ・周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- ・LED素子にバラツキがあるため、同じ品番のライトバーでも光色・明るさが異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・点灯させる際に、明るくなるまでの時間や動作がライトバーの品種により異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・電源電圧変動などの影響により瞬間的に明るくなったり暗くなったりする場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・点灯直後・消灯直後にプラスチックの伸縮によるさしみ音が発生する場合がありますが、故障や異常ではありません。静かな環境や密集取付・密閉取付で使用する場合、さしみ音が気になることがあります。このような場合は直管LEDなどのタイプをおすすめします。



取説No. NNLK42575-T11

## 保証について

- 保証について.....この商品の保証期間は1年間です。但し、LED電源は3年間です。詳細は当社カタログを参照してください。
- 保証書について.....保証書が必要な場合は、当社代理店または当社営業所へお申し出ください。
- 補修用性能部品の.....当社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しております。  
保有期間 補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

## お手入れ

- 器具の清掃について.....  
水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。  
シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。  
変色・変質、強度低下による破損の原因となります。



- 感電のおそれあり。お手入れ時は、必ず電源を切ってください。
- ライトバー破損のおそれあり。ライトバーのカバーは樹脂製です。
- 取扱いに注意してください。
- やけどのおそれあり。点灯中や消灯直後はライトバーやその周辺をさわらないこと。

## ■ 定格

- ライトバーに同梱の説明書を参照してください。

パナソニック株式会社 ライティング事業部 〒571-8686 大阪府門真市門真1048

お問い合わせ先 パナソニック 照明器具・ランプ商品ご相談窓口 <https://sumai.panasonic.jp/support/>

0120-187-441 (フリーダイヤル) 【受付時間】月～土/9:00～18:00 (祝日・三が日を除く) ※携帯電話からもご利用になれます。

0120-872-460 (FAX) (Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03) 3256-5444 Osaka (06) 6645-8787 Open: 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays))